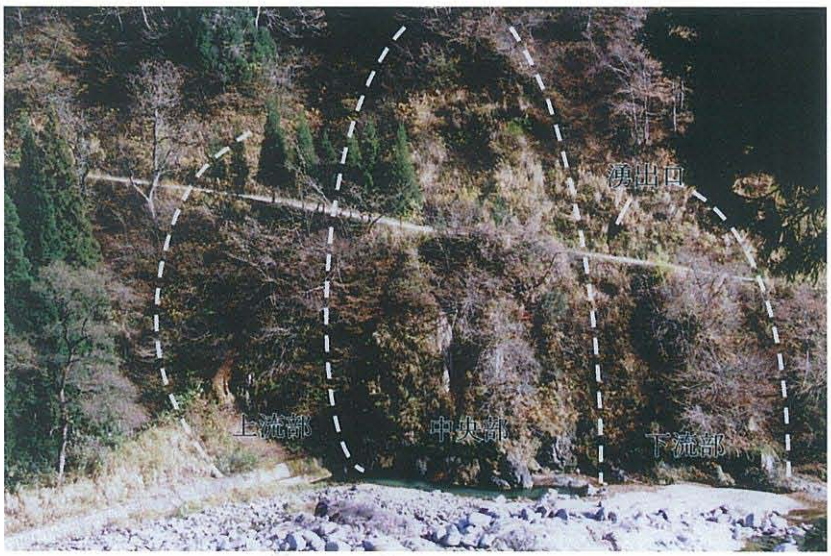
福井県大野市打波川流域の石灰華形成地

＜伊藤　一康・寺田　和雄＞

1. 第1地点の全景．平成4年に大野市指定天然記念物になっている石灰華形成地で，古くから「寒水石産出地」として知られていた．幅は最大約17m，全長約40m，高低差は約20mある．上部は滝状トゥファが発達し，中の下部には幅20～50cm，高さ10～30cmのリムストーンが発達している．

2. 第1地点の上部の滝状トゥファとフローストーン．滝状トゥファの高さは5.8mある．フローストーンは色は多彩で表面に微細な縞模様が見られる．

3. 第1地点の上部付近には藻類やバクテリアなどが集まった緑色や黒色のバイオマットが見られる．



4. 第2地点の全景．上流部，中央部，下流部の3つに分かれ，幅約40m，高さは約20mで，中央部の道路脇に顕著な湧出口が見られる．また，打波川の河床には飛騨変成岩類が露出している．

5. 第2地点の顕著な湧出口．毎分9リットルという勢いで自噴している．鉄分が非常に多く，周りが沈積した鉄分で赤褐色になっている．

6. 第2地点中央部の下部の石灰華，下部は洞窟状に窪んでおり，多彩な石灰華が形成されている．

7. 第2地点下流部のドーム状石灰華，幅6～7m，高さ約3mある．